

郷土マーメイド

逗子市立図書館報

第 26 号

2021 年 9 月 20 日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子 4-2-10

046(871)5998

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>



久木いまむかし ～お寺編～



奈良時代)

がんでんじ かいうんざん

岩殿寺(海雲山 岩殿寺)

いわどのかんのん

岩殿観音とも呼ばれている、現存する

逗子市内最古の寺です。門前にある岩殿

寺縁起には次のように書かれています。

「相州三浦郡久野谷郷くのやごう(神奈川県逗子市

久木)海前山岩殿寺(現在は海雲山となっ

ている)の由来は皇統四十五代の聖武天皇

の勅願による大和の国(奈良県)の長谷寺

の開山本願徳道上人が、この地に下向き

れたときに始まる。それゆえ、当山は徳

上、行基両聖人の開基といわれている。

また、大悲殿前から南海を見渡せるの

で、山を海前(現代は海雲山)と名付け岩

窟が自然の殿堂のようであったので、寺

を岩殿寺と号したといわれる。」

徳道上人はこの山頂に吉兆を示すめでた

い光を見た后感嘆し、この場所を霊場と

決めました。奈良時代の養老6年(722

年)に行基上人が十二面観音を作り、観

音堂を建てたとの記録があります。正暦

元年(990年)に花山法皇が来山、承安4

年(1174年)に来山した後白河法皇は、こ

こを坂東三十三ヶ所第二番の霊場と定め

ました。かつては鎌倉二階堂の坂東三十

三ヶ所霊場第一番の杉本寺から岩殿寺の

山頂付近へと繋がる巡礼の古道がありま

した。『吾妻鏡』には鎌倉幕府を開いた

源頼朝や妻の政子、長女の大姫、二代将

軍頼家、三代將軍実朝などが岩殿寺に参

詣したと書かれています。

岩殿寺は源氏の將軍たちから篤い信仰を受け、苦境に立つた時の將軍たちの心の支えとして、大切に崇められてきました。江戸時代の地誌『新編相模国風土記稿』しんべんさがみのくにふどきこうによると、久木は昔、岩殿村いわどのむらと称していたと書かれています。



『新編相模国風土記 第5集』より
岩殿寺の境内の様子です。長い石段の先に観音堂があります。

鎌倉時代

ほつしようじ えんばくせん

法性寺（猿島山 法性寺）

久木5丁目にある法性寺は鎌倉時代の日蓮宗の開祖である日蓮上人ゆかりの寺と伝えられています。建立の由来は、延宝年間（1673～1681年）にまとめられた『新編鎌倉誌』と天保年間（1830～1842年）の『新編相模国風土記稿』の二つに書かれています。後になって書かれた『新編相模国風土記稿』の記録の方が史実に近いようです。これによると、鎌倉幕府により弾圧を受けていた日蓮上人が文応元年（1260年）鎌倉の松葉ヶ谷で焼き討ちに遭い逃げる途中、白い三匹の猿があらわれて山の岩穴まで案内し、食べ物をお届けたり、上人のお世話をしたといえます。日蓮上人はそのご加護に感謝し、この地に寺を建立しようと思ひ立ちました。その思ひは弟子である日朗にちろうと孫弟子にあたる朗慶ろうけいに引き継がれ、日蓮上人が逝去してから約40年後の元応2年（1320年）に法性寺が建立されました。本堂の奥の急な石段を登りきった所に日蓮上人を祀った祖師堂があり、その横にある岩穴が、か

つて上人が隠れていた跡だと伝えられています。その祖師堂

の前には弟子の日朗のお墓があります。

法性寺は猿畠山法性寺という名が付けられているように猿と深い関係があり、山門の扁額は猿が掲げています。地元では昔から「おさるばたけ」の愛称で親しまれています。



『法性寺(撮影時期不明)』返子市 HP 返子フォトより
法性寺の山門の写真です。二匹の白い猿が見えます。

室町時代

みやうこうじ ほうきゆうざん

妙光寺(法久山 妙光寺)

あしががよしのり

室町幕府の將軍足利義教の時、第四代鎌倉公方の足利持氏あしががもちうじは、幕府に謀反を起こしましたが、事ならず敗れました。

持氏の家臣の富永三郎左衛門は、長い戦乱に嫌気が差して

武士をやめ、名を松岡富永と改め、久野谷に移り住み百姓

の暮らしをするようになりました。『新編相模国風土記

稿』には松岡家のことが次のように出てきます。ある時、

賢信けんしんと名乗る一人の旅僧が久野谷を訪れました。富永夫妻

は大変信心深かったので賢信を手厚くもてなし、賢信は富

永の家に逗留し、近隣の村を托鉢をして歩きました。ある

夜、賢信は岩窟の外に読経の声を聞きます。同じ頃、富永

の夢枕にも日蓮上人が立ち、戦乱の折、我が像が土中に埋

められたので掘り出して祀ってもらいたいと告げたという

のです。富永と賢信が読経の聞こえたあたりを掘り起こし

てみると、日蓮上人の小さなお像が出てきました。文正元

年(1466年)、二人は近くに小さな庵を建て、賢信が庵主と

なつて、このお像を祀りました。

富永夫妻が亡くなつた後、息子の雅楽之助うたのすけは父の法名の法

久と母の法名の妙光をとつて法久山妙光寺と呼ぶ新しい寺を

松岡家の地所に建てたと言われています。

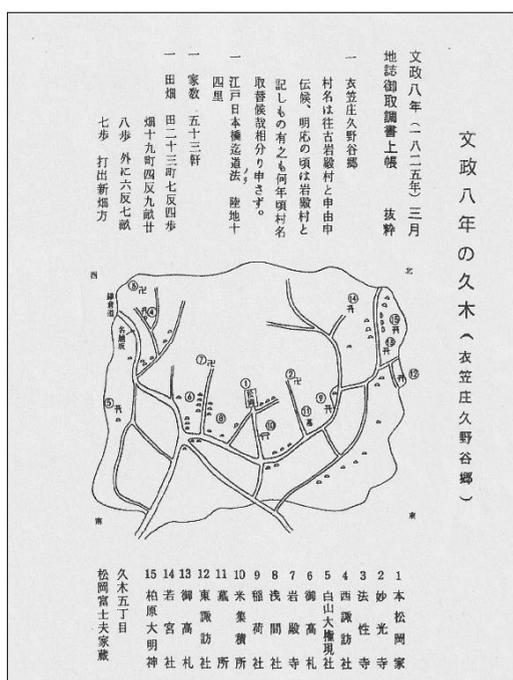
代々久野谷村の名主を務めた松岡家には、たくさんの古文

書が残されています。その中に文政8年(1825年)に描かれた

久木の絵地図があります。それによると江戸時代の久木が名

主の松岡家から妙光寺のあたりを中心にして開けていたこと

が分かります。



『わたしのふるさと久木-久木体育会創立20周年記念-』より

〈主な参考資料〉

『逗子市史 資料編1 古代・中世・近世1』 1985
逗子市 213.7 ズ1

『逗子市誌 第2集 古老を囲んで』 1956
逗子教育研究会調査部編集/逗子市 P 213.7 ズ2-1

『新編相模国風土記 第5集』 1888 谷野遠 Z 29. A シ5

『わたしのふるさと久木 久木体育会創立20周年記念』 1980
久木体育会 20周年記念事業実行委員会/逗子市

久木体育会 Z 29. W 1

『わたしのふるさと久木-続 久木体育会創立40周年記念』
久木体育会 40周年記念誌発行委員会編集/逗子市
久木体育会 P 291.3 W

『逗子市文化財調査報告書 第3集 山の根・久木』 1972
逗子市教育委員会編集/逗子市教育委員会 709 ズ3

『逗子道の辺百史話』 1992
三浦澄子編集/宇志久野 P 213.7 ミ

『逗子子ども風土記』 1989
逗子教育研究会調査部編/逗子教育研究会 P 291.3 ズ

『逗子市内の地名調査報告書』 1998
逗子市地名調査研究会編集/逗子市教育委員会 Z 29. Z ズ

